講演会

私が原発を止めた理由

樋口 英明 氏

（元福井地方裁判所　裁判長）

日時: 2025 年 9 月 6 日(土)
14：00～16：30

場所: 北野市民センター
8 階ホール
参加費 700 円

2014 年、大飯原発の差し止め判決を下した、樋口英明元裁判長の講演を企画しました。差し止めの理由は明快です。「日本は地震が多発するのに、原発の耐震性が弱い」です。さらに、ことごとく原発裁判が負け続ける理由についてもお話し下さいます。多くの方のご参加をお待ちしております。

主催：　ハカルワカル広場（八王子市民放射能測定室）、
放射能から子どもを守ろう原発ゼロへ八王子の会
憲法共同センター八王子

連絡先：憲法共同センター八王子　042-623-8046

「原発事故のもたらす被害は、極めて甚大である。それゆえに原発には、高度の安全性（事故発生確率が極めて低いこと）が求められる。地震大国日本において、原発に高度の安全性があるということは、原発に高度の耐震性があるということにほかならない。しかし、我が国の耐震性は極めて低い。

よって、原発の運転は許されない」。　元福井地方裁判所 裁判長 樋口　英明

裁判から見えた「東日本壊滅」のがれたのは「天の配剤・奇跡」

近藤委員長は、強制移転を求めるべき地域が、170km 以遠に生じる可能性や、住民が移転を希望する場合にこれを認めるべき地域が東京都のほぼ全域や横浜市の一部を含む 250km 以遠にも発生する可能性があるとしました。これは、「東日本壊滅」にほかなりません。

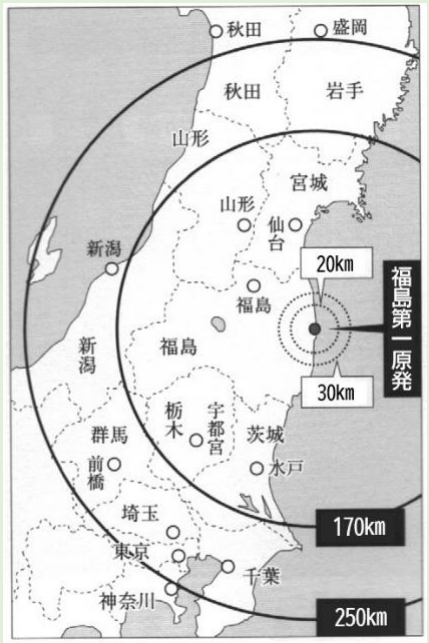

図3　最悪のシナリオ

回避できたのは

- ４号機で1978年の運転再開後初めてのシュラウド取り換え工事が遅れたため、本来なら抜かれていた水があり、地震によって仕切りがずれたことによってその水が流れ込み、使用済み核燃料が冷却がされたこと。
- 「屋根が吹き飛ぶ」程度の爆発が、天井部分からポンプ車で水を入れることを可能にしたこと。

（大爆発だったら壊滅。小規模だったら水を注入できません）

- 当時、日本ではポンプ車のブームの長さが最大 33 メートルに制限されていたため、効果的な注水ができなかった。中国企業である三一重工が、福島原発の危機的状況を知り、中国国内にあって、ドイツに輸出しようとしていたブーム 62 メートルのポンプ車を急遽、福島第一原発に発送してくれ、原子炉を冷やし続けられたこと。

✧　**信じられない数々の奇跡、援助が重なって初めて 250 キロ圏内住民避難の危機は回避されたのです。**

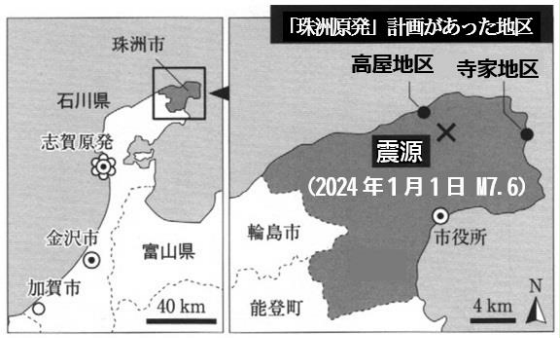

図1 「珠洲原発」計画があった地区
(https://www.tokyo-np.co.jp/article/304267 東京新聞)

能登半島地震 もし珠洲原発、志賀原発が稼働していたら…

1975 年ころ、北陸電力、中部電力及び関西電力の３者が出資し、珠洲市内の高屋地区及び寺家地区に珠洲原子力発電所の建設が計画されました。

しかし、28 年間にも及ぶ住民の粘り強い反対運動によって、その計画は 2003 年に凍結されました。 令和６年能登半島地震の震源地は珠洲原子力発電所建設予定地,高屋地区の直下で M7.6 でした。また、震源から 70 キロメートル余り離れている志賀原発にも揺れがおそいました。　（原発と司法　から）

樋口　英明さんの講演は、「原発の問題は難しい」「原発はそれなりに安全につくられている」という先入観をなくしてくれます。